

国営ボリビアTV放送設備の調査

1. 調査の背景・経緯

中南米における地上デジタルテレビ放送の日本方式（ISDB-T方式）採用状況は、2006年6月29日にブラジル（2007年12月放送開始）、2009年4月23日にペルー（2010年3月30日放送開始）、8月28日にアルゼンチン（2010年4月28日放送開始）、9月14日にチリ、10月6日にベネズエラ、さらに2010年3月26日にエクアドル、5月25日にコスタリカ、6月1日にパラグアイ、7月5日にボリビアが日本方式の採用を決定し、これで9カ国になりました。（参考：2010年6月11日にフィリピンが採用決定）

既にボリビアは日本方式の採用を決定していますが、調査以前は、地上デジタルテレビ放送方式の採用について検討中だったボリビアに、（財）JKAの補助事業として調査団を派遣し、国営ボリビアTV放送設備の状況調査を実施しました。

調査団員構成	主任調査員	横井 康和（総括、スタジオ設備調査）
		JTEC 放送技術部長
	調査員	佐藤 健市（送信設備調査）
		JTEC 上席コンサルタント
調査日程	2010年6月4日（金）～6月25日（金） 22日間	



本部



ラパス市内から望む放送所

2. 調査の実施状況

番組制作設備は、カメラを除いて殆どがアナログ機器です。将来のデジタル放送に備え、これらのアナログ機器を2010年8月頃までにデジタル機器に変更する予定で、既に機材は発注済み（米国グラスパレー社）です。



スタジオ



スタジオ副調

基幹放送所は、全国の9県庁所在地に一つずつあり、その他、全土に120ヶ所の中継放送所（殆ど100w局）があります。これらにより、約70%（人口比）をカバーしています。更に、2011年までに100ヶ所の中継放送所（殆どが100w以下の小電力）を建設し、カバーエリアを90%に拡大する計画です。

また、現在ボリビアTVは、首都ラパスの本部から同一番組を衛星経由で全国放送していますが、将来は、ボリビアを東西に分け、西部地域では、首都ラパスを中心とした文化を取り入れた番組を制作・放送し、東部地域では、第二の都市サンタクルースを中心とした文化を取り入れた番組を制作・放送する計画を策定しています。

調査の結果、地上デジタルテレビ放送に対応するための設備として、送信整備が必要との結論に至りました。なお、完全デジタル化への移行には、約10年（～2020年）かかるとのコメント（オフレコ）がありました。